

越沢自治会による集落を挙げた 獣害対策の推進について



MURAKAMI CITY

村上市

新潟県

目次

1. 新潟県村上市山北地区越沢集落について
2. 有害鳥獣対策を始めたきっかけ
3. 実施した取り組み
4. 活動の成果
5. 今後の問題
6. 最後に



MURAKAMI CITY

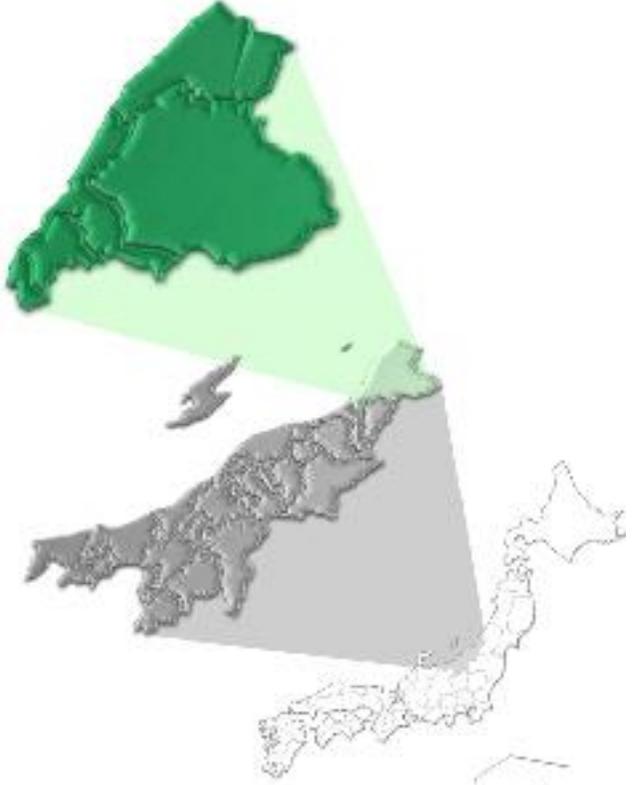
村上市

新潟県

1.新潟県村上市概要

新潟県の北端に位置し、北から東にかけては山形県に接している村上市。南は関川村および胎内市と接し、70キロメートル圏内には新発田市、新潟市および山形県鶴岡市があります。

面積は約1,174.17平方キロメートルで、新潟県の総面積のおよそ9.3%を占めており、海岸線は、約50キロメートルにも及んでいます。



位置
 東経 139度28分48秒
 北緯 38度13分27秒
 (村上市役所)
 面積 1,174.17平方キロメートル
 人口 令和2年国勢調査(確報値)
 人口 : 57,418人
 世帯数 : 21,549世帯



新潟県村上市山北地区 (旧：山北町) の概要

- 総面積 283.91km²
(93.3%が山林)
- 人口 5,072人
- 世帯数 1,985世帯
(2022年3月22日時点)
- 48の集落



村上市越沢集落の概要



鶴岡市方面

▲烏帽子岳

寒川集落

越沢集落

村上市方面

▲城山

国土地理院



月	集 落	公 民 館	営 農 組 合	消 防 団	老 人 ク ラ ブ	桶 栄 会	ふるさと創生
令和7年	6日 春神楽(中止) 6日 下水と道路清掃 4月 6日 県道脇の空缶拾い 20日 定期総会 8・27日 理事会		年間を通して多面的支援 交付金事業を実施	1日 夜警・春・機械点検 (以下毎月毎月1日に無線交信と 共に実施) 1日～7日 春の防火週間 (広報及報及びパトロール)	11日 総会 ※以後 毎月月例会の実施	6日 花見(中止)	
5月	17日 理事会 18日 区費第1期分徴収			18日 ポンプ操法競技会 (村上市市消防本部にて)	奉仕作業 (東・西の花壇の手入れ) 出前講座(交通安全)		25日 グランド草刈り
6月	理事会	1日 グランドゴルフ大会			環境保全作業 山北地区老連G・B (会長杯) ポッチャ大会		1日 実行委員会 16日 元気づくり支援事業 16日 河川の草刈り
7月	消防・自主防災会との懇談会 理事会	上旬 ホタル観賞会 研修視察旅行 (営農組合と共催) 中旬 支館スポーツ大会	研修視察旅行 (公民館と共催) 共同作業(水路草刈り) 農事講習(穂肥) 前期分経常費徴収	7月下旬～8月-8月上旬 (海浜特設特別警戒)	奉仕作業 (花壇の手入れ) 日帰り研修旅行 山北地区会長杯ゲート ボール大会		
8月	3日 下水と道路清掃 理事会 17日 区費第2期分徴収 理事会 会計中間監査 村上市への要望	中旬 敬老会	農事講習・反省会 (刈取り適期)	村上市市総合防災訓練 環境整備整備保全会と 合同整備	奉仕作業 神社・センター前 地蔵様 村上地区労連 ゲートボール大会	生ビール祭	グランド草刈り
9月	5日 下水と道路清掃 理事会 19日 秋神楽の奉納			19日 秋神楽参加(御神輿)	奉仕作業 (花壇の手入れ) 第二回一斉清掃 (神社前・センター他) 山北地区市長杯ゲートボール大会		
10月	16日 区費第3期分徴収 理事会		収穫祭実施 後期経常費徴収 農道補修	中旬 秋の事の事業 (秋の防の防火用水取入口等の 点検修繕修繕(集落・自主防災会 と共同作業)) 環境整備整備保全会と合同整備	悠遊さんぽくポッチャ大会 講演会		
11月	理事会		電気柵の撤去	28日～30日 日年末特別警戒 (広報及報及びパトロール)	忘年会 集落センター (障子貼り替え作業)		
令和8年	1日 一統礼 さいの神(3組担当) 理事会 1月 15日 区費第4期分徴収 組長会 理事会 2月 理事会 会計年度末監査 3月	合同年祝い 生涯学習		1日 出初め初め式 除雪作業(必要に応じて) 下旬 春の事の事業 (用水取水取入口等の点検修繕)	新年会 山北地区老連お楽しみ 湯治研修 月例会 役員会・監査会 日の丸会ポッチ大会	新年会	



※ 以上は計画、予定であり変更もあります、皆様のご協力をお願いいたします。

多面的機能支払交付金による農地・水路・道路等の維持管理・環境整備・生物調査・獣害対策活動等の組織的实施



2. 有害鳥獣対策を始めたきっかけ

○H24まで・・・

- ・ニホンザルによる鳥獣害被害が多発しているが、集落として主だった対策は行っていない。
- ・有害鳥獣捕獲の有資格者が当時0人だった。
- ・このまま放置すると田畑で耕作ができなくなる危機感。



3. 実施した取組

取組① ニホンザル用電気柵の設置

- 村上市有害鳥獣被害防止対策協議会の事業により、電気柵を導入



越沢集落での複合柵実例

サルによる通常の電気柵の突破事例が令和5年よりポツポツ出始め、令和6年には越沢集落内の殆どの電気柵が突破されてしまう。そのため長野式電気柵のようにネットを追加し複合柵に。



越沢は積雪するが、屋根下ろしは大雪でもないと行わない地域なので積雪による複合柵への影響は少ないと見ています。

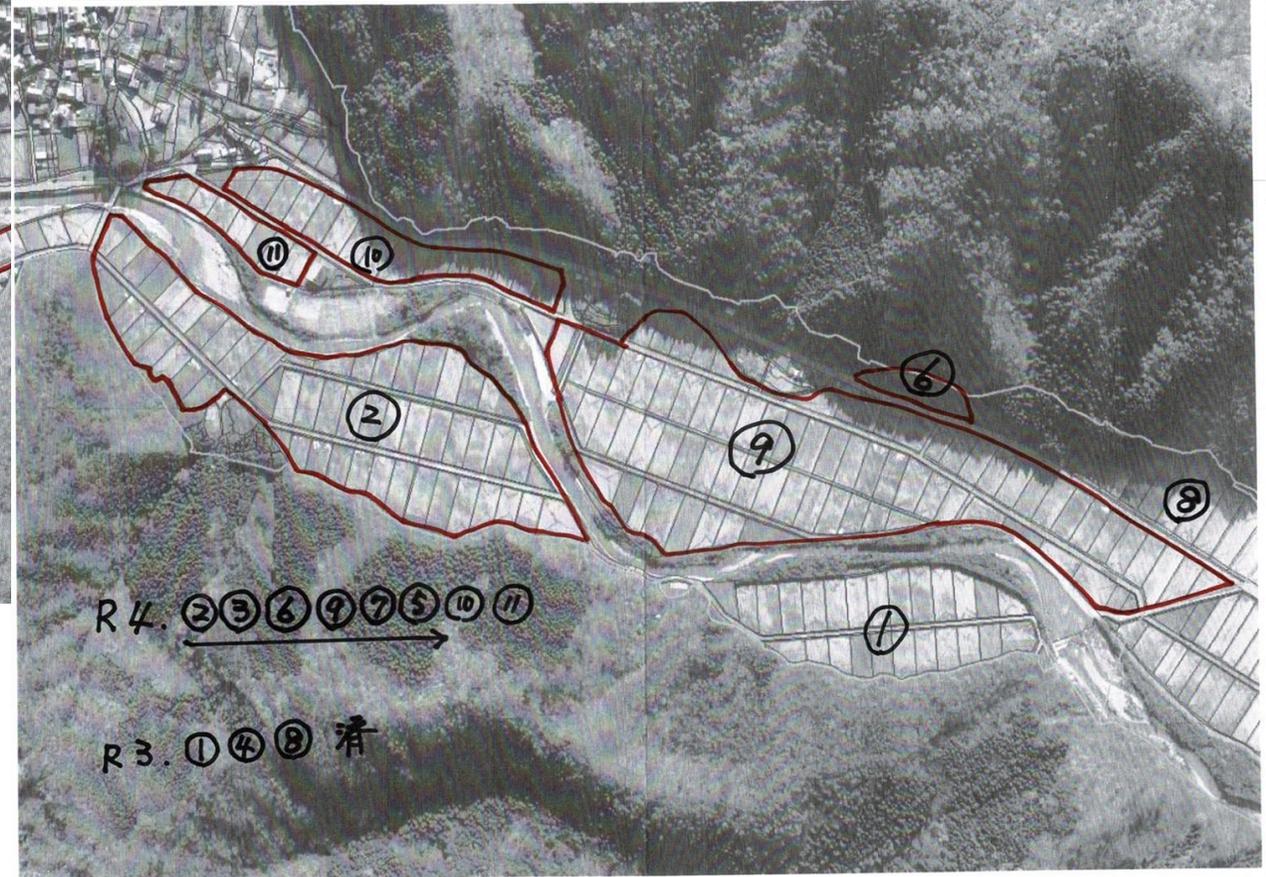
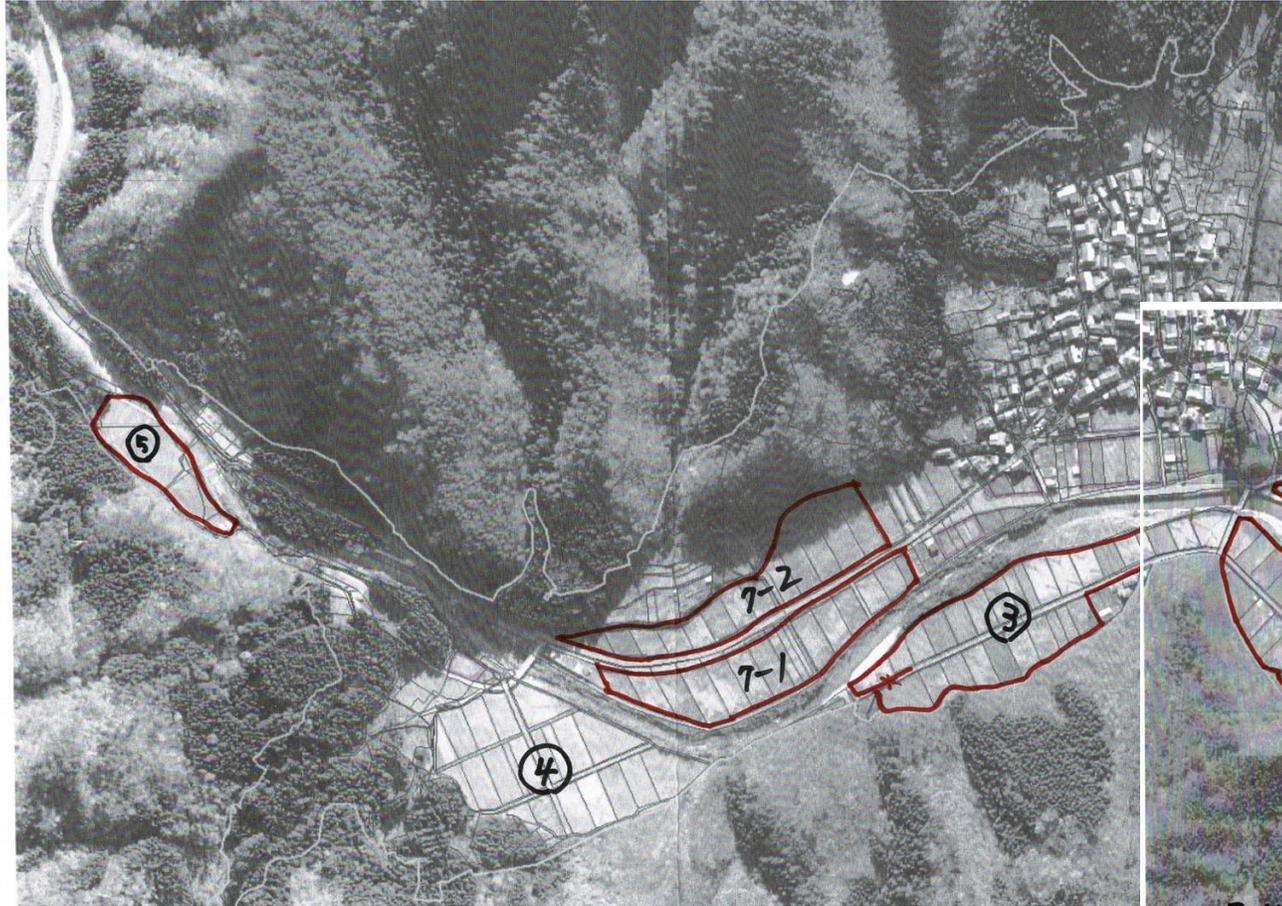
越沢集落の電気柵設置状況 (令和5年度末現在)

年度	国補助	市単独	計	延長 (m)	対象鳥獣
H25	1	2	3	580	サル
H26		3	3	380	サル
H28		5	5	375	サル
H29	5		5	404	サル
H30	7		7	759	サル
R01	6		6	480	サル
R03	1		1	60	サル
	3		3	2,220	イノシシ
R04	8		8	7,130	イノシシ
R05	1		1	120	サル
	3		3	770	イノシシ

ニホンサル対策電気柵 3,158m (国補助 21か所、市単独補助事業10か所)

イノシシ対策電気柵 10,120m (国補助 14か所)

越沢集落のイノシシ用電気柵設置状況



R5、R6も残りの細々とした農地に電気柵を設置

越沢集落住民による集落内電気柵の回収および再設置作業

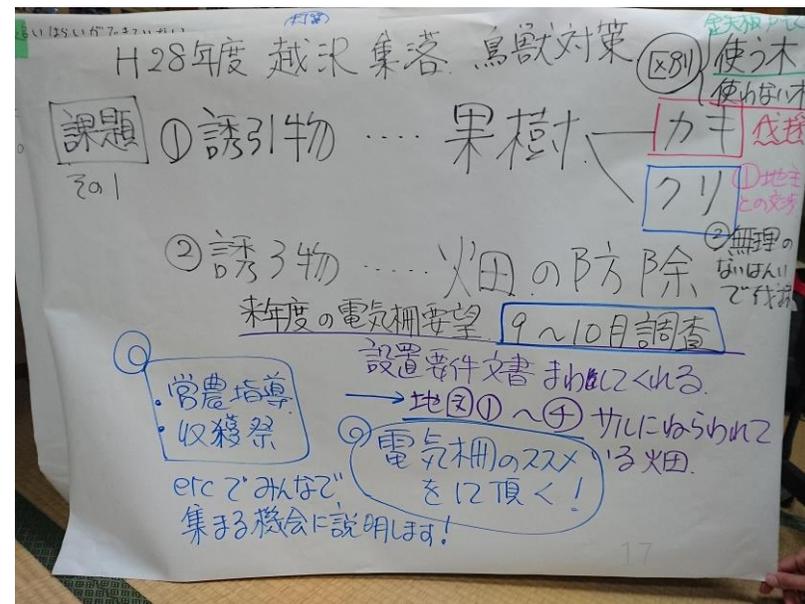
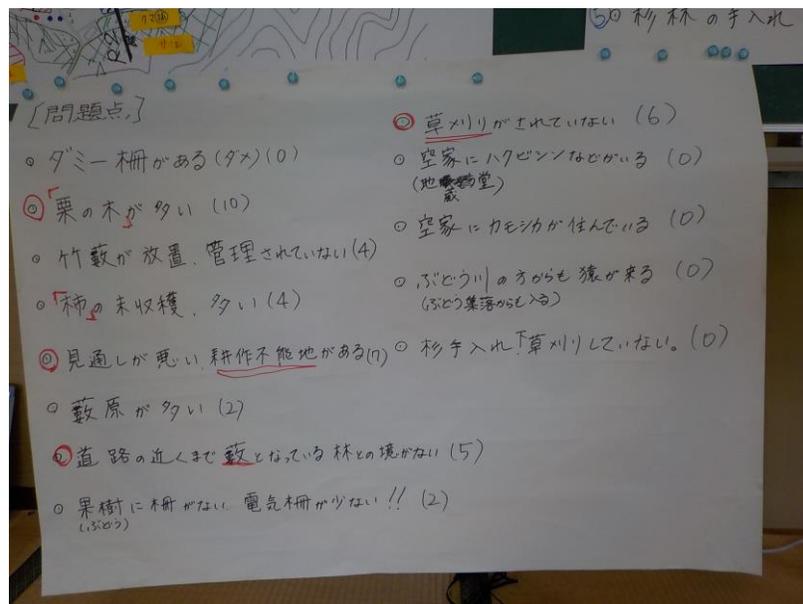


取組② 集落環境診断の実施【H28年度・29年度】

有害鳥獣対策について、農業者だけではなく集落全体の問題として共有し、集落が一丸となって対策を推進するために、外部の専門家を招いてのワークショップを実施。

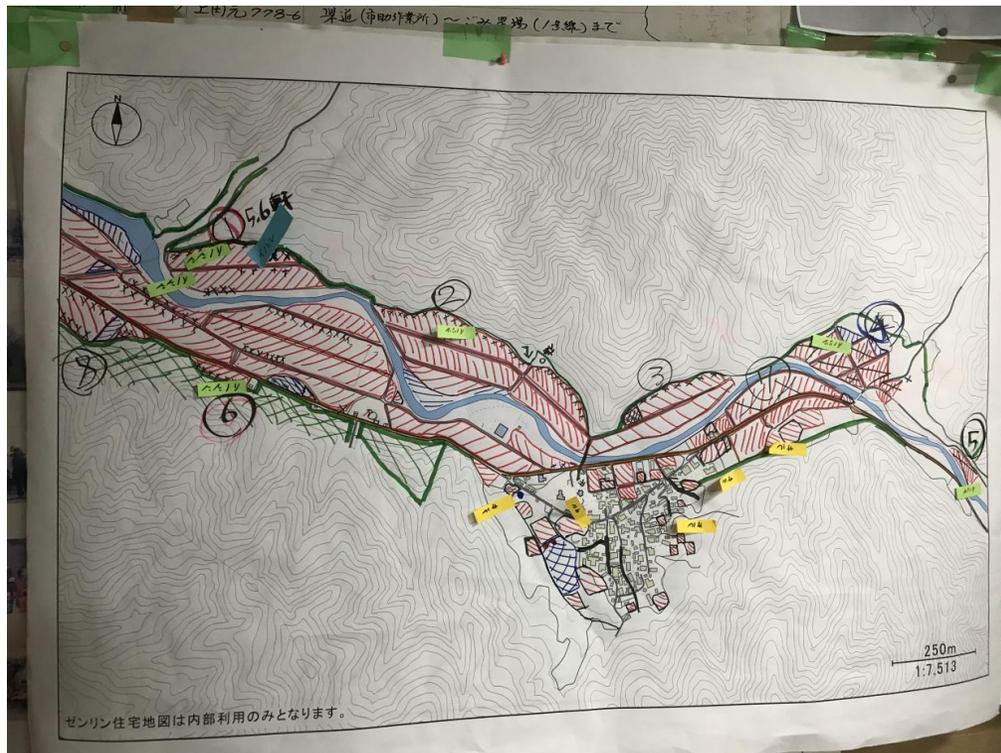
※集落環境診断は村上市有害鳥獣被害防止対策協議会事業で平成26年度から実施。山北地域内では越沢集落が初めて。

取組③ 集落環境診断の実施



取組③ 集落環境診断（イノシシ対策） 【R1年度～R4年度】

近年イノシシによる水稻被害が多発し、越沢集落で稲作ができなくなるのではないかという危機感から、改めてイノシシ対策の集落環境診断・ワークショップを実施。



ワークショップ内で有害鳥獣対策の地域おこし協力隊を導入してはどうか？という声があった。

② 捕獲体制の整備

① 免許を取ってほしい → 2名
→ とめどしが不安 → ① 猟友会に依頼
(市の << 猟研修 >>)
② 電気とめどし機
上級者研修
集落単位で研修開催

① 箱ワナを設置を試してみる？
→ 車で2台余っている (毎日見回り)
→ 稲刈り後～春に設置

まへ向ま
山北分會に

② 協力隊を鳥獣捕獲として雇用
週5日を実施
3年

イ) シシ | 8月～9月
有害

サカ | テレトリー 盗着
テレトリー 行動 採査

将来
×1人専門の
↓ フォロを育成 → 長岡で修業
次を育成

取組④ 地域おこし協力隊の導入【R3～R5】

神吉能宜隊員（兵庫県出身）

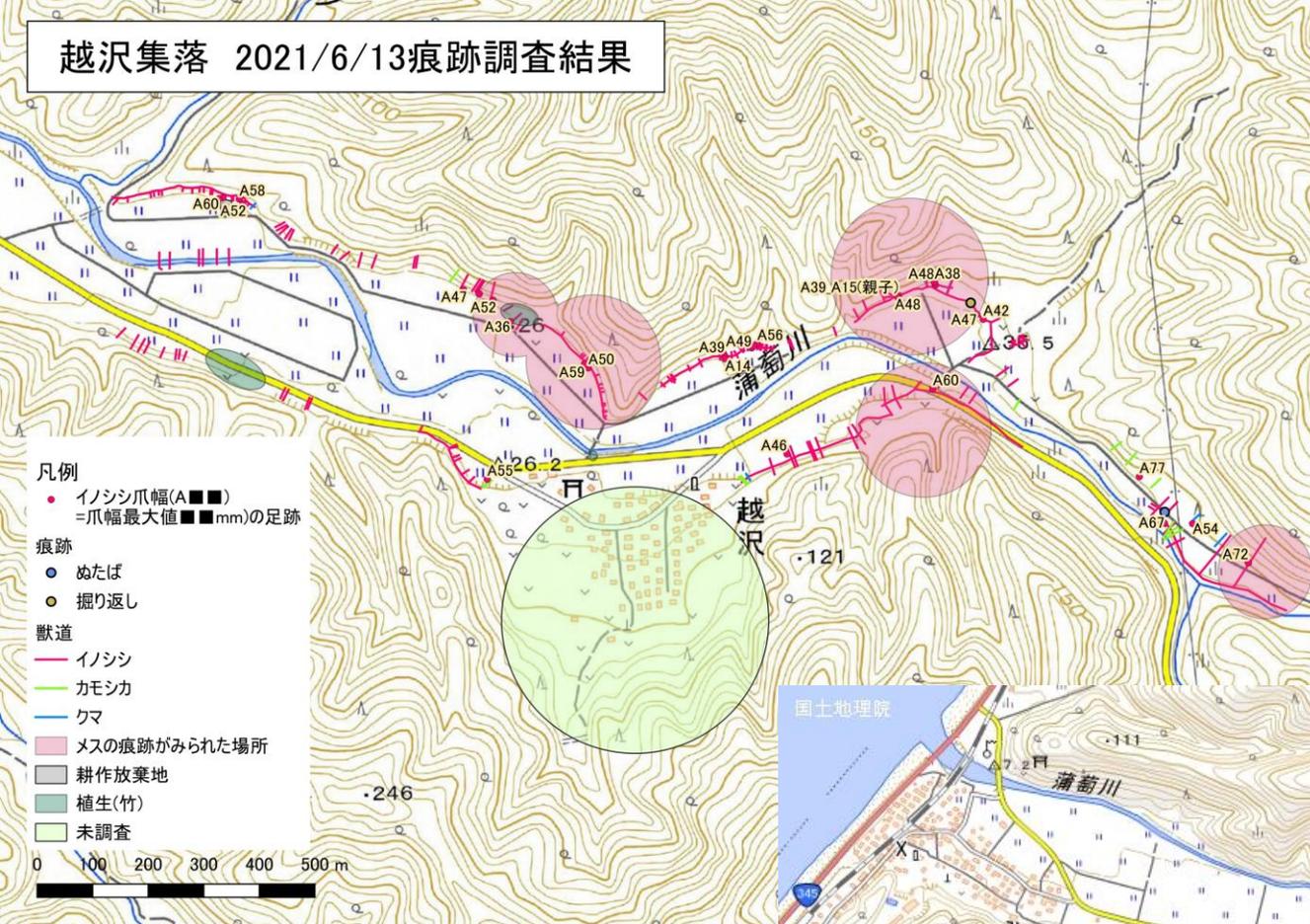
- 協力隊任期終了後も集落に定住
- R6～ 村上市集落支援員（獣害対策）として活動
- 捕獲・防除・調整役を一体的に担う



取組⑤ 専門家による現地研修を実施



越沢集落 2021/6/13痕跡調査結果



取組⑥ 各種技術的工夫



寒川および越沢集落間での罠設置地点

取組⑦ 集落内グループチャットを利用した地域内連携による安全かつ効率的な捕獲体制の構築



ICT長距離無線式捕獲パトロールシステムの導入による効率的な捕獲管理 取組⑧ (新潟県村上市)

- 有害鳥獣捕獲従事者は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い外出自粛を要請される中であっても、捕獲わなの作動状況の定期的な現地確認が必要
- 捕獲者の健康と安全を守り、わなの効率的な管理と見回りの負担軽減のため、ICT長距離無線式捕獲パトロールシステムを導入

課題

- 県内の市町村で面積が最も大きく、豊かな自然環境に恵まれており、野生動物が多く生息
- イノシシやニホンザル、ツキノワグマなどによる農作物被害が発生しており、農家の営農意欲の減退や耕作放棄地の拡大にもつながる問題が深刻化
- 近年、市内全域でイノシシが出没し、急速に生息域が拡大しているため、農作物被害が増加するとともに、人里近くにまで出没する状況にあるため、人身被害の懸念も顕在化
- 有害鳥獣捕獲従事者の減少や高齢化が進む中、わなの見回りや誘因のための餌やりなどが捕獲従事者の大きな負担となっていたことから、わなの効率的な管理と見回りの負担軽減が必要

(村上市棚田の風景)



取組内容

- 高齢化により捕獲従事者が今後も減少する将来を考えると、捕獲に伴う負担軽減が急務であり、更に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、捕獲者の健康と安全を守るために、ICT機器を活用した効率的な捕獲体制を構築する必要があることから、村上市の地理条件に適したICT長距離無線式捕獲パトロールシステムを導入

システム概要



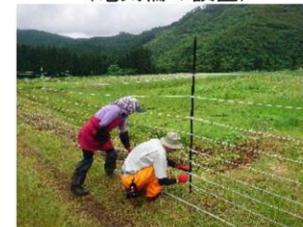
成果

- 基地局を複数設置したことにより、村上市内の広範囲な区域で通信が可能となり、わなの効率的な管理が可能に
- メール受信後に止め刺し等の事前準備をしてから現場に行くことができるため、効率的に捕獲作業を行うことが可能に
- ICT機器の導入により、わなの見回り負担の軽減や見回りに伴う様々なリスクも軽減され、捕獲者の安全対策が進捗

(集落環境診断の実施)



(電気柵の設置)



(くくり罠の設置)



並行した取組

村上市での鳥獣被害防止のための被害防除・環境整備・捕獲の3本柱の取組

- 集落環境診断を実施し、住民の被害防止意識の醸成に努めており、見回りなどの捕獲補助や、電気柵の設置、誘引物の撤去、山林の整備、緩衝帯の設置など、狩猟免許を持たない農業者をはじめとした地域住民が協働で取り組める地域ぐるみの捕獲体制の構築を推進
- 捕獲従事者を対象としたイノシシ捕獲技術向上の研修会を開催し、効率的なわなの仕掛け方等を普及



ICT長距離無線式捕獲パトロールシステムの導入による効率的な捕獲管理(新潟県村上市)

きっかけ

- 有害鳥獣捕獲従事者の減少や高齢化が進み、更に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出自粛等を要請される状況であっても、捕獲わなの作動状況の定期的な現地確認が必要
- 近年、市街地にまで出没するイノシシなどによる被害防止に向け、効率的な捕獲及びわなの管理とともに、捕獲者の健康と安全を守ることが重要

【基地局(市役所屋上)】
ソーラーバッテリーシステム

課題

- 村上市の面積は新潟県内で最も大きく、捕獲の有無にかかわらず、わなを定期的に見回るのは大きな負担
- 中山間地の見通しが悪い箇所の見回りは特に危険で、止め刺しの準備をせず見回りを行い、わな捕獲鳥獣を発見してから、再度止め刺しの準備をするといったケースもあり、捕獲従事者の安全性確保や負担増加が懸念
- 捕獲従事者の高齢化や減少に伴い、捕獲効率の低下が懸念されたため、ICT機器の活用を従前から検討

Step1 ICT機器導入

(R2)

- 農林水産省のHP「鳥獣被害対策に活用出来る機器情報」を参考にICT機器の導入を検討
- 中山間地の電波の届きにくい場所や高低差があっても安定した通信ができることを条件に機器を選定
- 導入前にシミュレーション等を行った結果、中山間地に適した通信方式と広範囲の通信範囲、低いランニングコストである「ICT長距離無線式捕獲パトロールシステム」を導入

【R2導入】

- ICT長距離無線式捕獲パトロールシステム
- ・基地局: 1基
- ・子機: 10台

Step2 導入効果(R2)

- 捕獲情報が事前にメールで届くため、わなの見回りの回数が減り、捕獲従事者の作業負担を軽減
- 捕獲メールのほかにWEBページで、どのわなが作動したか視覚的に確認できるため、複数のわなも一目で確認
- メール受信後、打合せを行い、止め刺し等の準備をしてから現場に行くことができるため、捕獲従事者の安全を守ることが可能に
- 捕獲従事者や他の地区からはシステムの範囲拡大を要望

Step3 区域の拡大(R3)

- R2で高い効果が得られたことから、R3に基地局及び子機を追加導入
- 村上市内の中山間地を含む広範囲で通信が可能となり、わなの効率的な管理が可能に

【R3導入】

- ICT長距離無線式捕獲パトロールシステム
- ・基地局: 3基
- ・子機: 15台
- 【合計(R2+R3)】
- ・基地局: 4基
- ・子機: 25台

今後について

- 今後は、自動撮影カメラと赤外線カメラ付ドローンを活用し捕獲率向上を図るとともに、ICTによる檻わなの遠隔監視操作・自動捕獲システムの導入を検討することで、さらなる捕獲従事者の負担軽減とわな管理の効率化、捕獲率向上を企画
- 村上市が既に保有している有害鳥獣関連機器
- ・ICT長距離無線式捕獲パトロールシステム
- ・自動撮影カメラ
- ・赤外線カメラ付きドローン

《今後導入を検討》

- ・ICT遠隔操作・自動捕獲システム(檻わな)

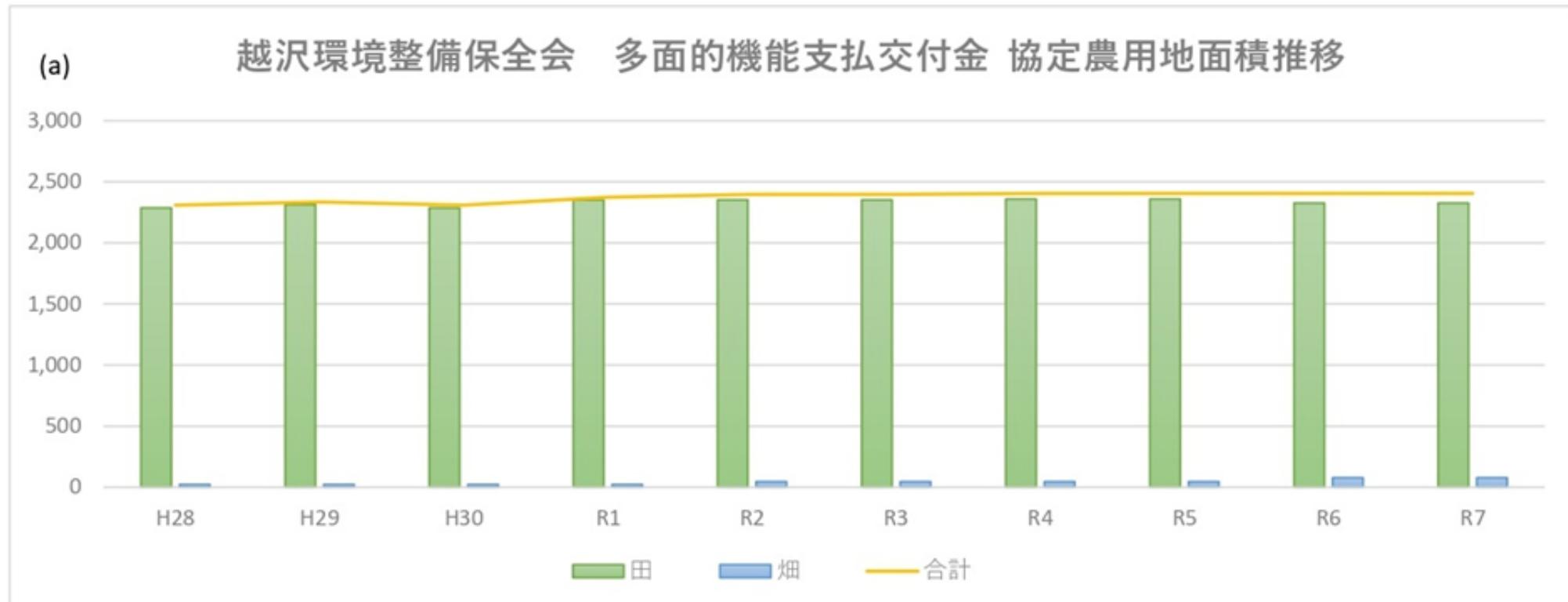


4. 活動の成果

耕作面積の維持（多面的機能支払交付金協定農用地）

越沢環境整備保全会 多面的機能支払交付金 協定農用地（取組）面積 （単位：a）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
田	2,287	2,314	2,287	2,352	2,352	2,352	2,359	2,359	2,327	2,327
畑	22	22	22	22	46	46	46	46	78	78
合計	2,309	2,336	2,309	2,374	2,398	2,398	2,405	2,405	2,405	2,405



4. 活動の成果

(1) サル・イノシシ用電気柵の設置

○集落内のほぼ全域の農地を囲むことができた。

○隣の寒川集落にも設置面積を拡大。

(2) 集落内での有害鳥獣獣害の担い手の増加

○H24年度 0人 ⇒ 令和3年度 5名

(3) 集落住民の意識の共有が図られた

○定期的に電気柵の機能診断を行ったり、外部有識者からノウハウを頂戴するなどして、常に対策を施している。

(4) 地域おこし協力隊の導入

○集落住民とも親密な関係になり、集落住民と共に対策に取り組んでいる。

5. 今後の問題

電気柵設置面積増加による維持管理負担増



イノシシによる破損



不適切な柵設置による侵入



雑草による漏電



イノシシ侵入時に電気柵ワイヤーについた泥



看板接触による漏電



集落内・付近への イノシシ・クマの出没



集落内に設置した箱罠に来たクマ



ニホンジカ・アライグマの進出



2025年10月14日に越沢集落内田んぼにて目撃・撮影されたメスジカらしき個体
(オスジカは5～6年前から目撃情報が年に数件あり)



2025年には山北地区の板貝集落にて個体が撮影され、隣の寒川集落で足跡が確認された。

6. 最後に



こえさわ

むらかみし

越沢環境整備保全会（新潟県村上市）

- 越沢環境整備保全会は、海・山・川に囲まれた環境に位置し、自然豊かな農村維持を目的として平成23年度より本交付金の取組を実施。施設の整備、複数箇所の植栽、生き物調査、獣害対策等多岐にわたる活動を組織で役割分担をしながら実施している。
- 本地域（組織）の特徴として、令和3年度から地域おこし協力隊を受け入れ、集落を挙げて獣害対策に取り組んできた。協力隊員は3年の任期を終えた退任後も村上市集落支援員勤務をしながら集落に残り、越沢環境整備保全会構成員として活動している。
- 獣害対策のスキルを持つ者が活動の計画策定から加わり、獣害対策のアドバイスを行うことで活動組織に対策のノウハウが身につく。その結果、取組以前と比べて獣害被害が減少し、10年以上変わらない耕作面積の維持ができています。

【地区概要】※R6年度時点

- ・認定農用地面積 24 ha
(田 23 ha・畑 0.7 ha)
- ・資源量 水路20.9km・農道3.3km
- ・主な構成員 営農組合、自治会、老人クラブ、消防団、子ども育成会等
- ・交付金 約150万円（R6）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

獣害対策取組以前の状況

○H24年度頃から猿、R1年度頃からイノシシ被害が出始め、圃場が荒らされ、畦畔や農道が破壊されていた。R2年度頃からは一年中水路の泥上げと施設の修復を繰り返す日々。当時は主だった対策は行っておらず、このまま放置すれば耕作、営農ができなくなる危機にさらされる。



イノシシにより壊された畦畔・農道。水路も泥で埋没。

獣害対策取組内容

○獣害対策のノウハウを持つ者を組織に招き、構成員として（泥上げや草刈り等の活動を含め、）計画策定から活動を共にしている。そのため、獣害対策の知識支援を受けながら活動ができる。



○また、多面的交付金から電気柵や箱罠の設置、緩衝帯整備の日当を支出している。



獣害対策取組の効果

○電気柵設置には非農家含め毎回20人前後が参加。R5年度末には集落内ほぼ全域の農用地を囲うことが出来た。（総延長13,278m）

○多面的活動の一環としてイノシシの箱罠設置を行っており、同じ団地の隣接集落を含めるとR6年度は6頭、R7年度は2頭捕獲。またくくり罠ではR6年度は1頭、R7年度は6頭捕獲。



○これらの活動により、獣害被害が取組以前と比べて減少した。しかしながら、猿も含め、学習能力が高い個体が生き残り、今までにない被害も多発。有資格者の人数、労力の問題を含め、探索しながらレベルをあげて現在も奮闘中。



ご清聴ありがとうございました！

ようこそ山北（さんぽく）へ



イノシシ対策の担い手募集！

～地域おこし協力隊として地方移住～



新潟県村上市山北地区